



特定非営利活動法人

日本医師事務作業補助研究会

JSMOA Japanese Society of Medical Office Assistants



## 第1回三重地方会 活動報告

テーマ:「求められる医師事務作業補助者の役割」

開催日時:平成31年3月23日(土)13:00~17:00

会場:独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター附属看護学校

### 開会の挨拶



研究会の南木由美副理事長の開会挨拶に続き、会場施設である三重中央医療センターの霜坂辰一院長から医師事務作業補助者の導入により各種書類の作成が各段に楽になったとの自身の体験から、今後における医師の働き方改革で医師事務作業補助者の必要性が更に高まることが予測されるので、

研鑽に励み更なるスキルアップをしていただきたいと激励いただきました。

### 『医師の求める事務作業補助者の役割』

三重中央医療センターの田中滋己副院長から、「医師の求める医師事務作業補助者の役割」として、導入の経緯や施設基準上で認められている業務内容、医学的な基礎知識のみならずコミュニケーション能力に関するスキルが求められる現状から、今後の課題や医師の要望等とともに医師事務作業補助者のレベルアップが望まれていることを話されました。

### 医師事務作業補助実施者からの実践報告

- ・松阪市民病院 医療統計室 早川 舞 氏
- ・三重中央医療センター 企画課 MA 主任 宮本 由季 氏

まずは、松阪市民病院の早川 舞氏から「医師補助による医学管理料算定に関する取り組み」として、算定率向上のために医師ごとに問題点を可視化し解決

方法を見つけ代行入力を行っていることが報告され、次に、三重中央医療センターの宮本由季氏から「当院 MA の“これまで”と“これから”」として自院での医師事務作業補助者の導入初期から現在までの業務内容等の変化や現状の課題について報告されました。発表後、他施設の方々からの質問もたくさんあり、他施設の取組等を聞くことができる貴重な機会となりました。



### 『医療文書の適切な取り扱いと医師事務作業補助者が代筆する際に気をつけること』

浜松医科大学医学部附属病院医療福祉支援センター長の小林先生から、「医療文章の適切な取り扱いと医師事務作業補助者が代筆する際に気をつけること」として、医師が書類作成をした場合に年間約 950 万通、500 万時間を費やすくらいの大変な業務を医師事務作業補助者が行っていることから、文書偽造等などのトラブルに巻き込まれない様にするために知っておくべき医療文書作成に関する法規等について学びました。併せて、実務的内容でスキルアップにつながる診断書等の書き方、注意ポイントなども学びました。

### 『書類作成 ～新人教育の中で学んだこと～』



総合大雄会病院 GMC 小島さんから「書類作成 ～新人育成のなかで学んだこと～」として、御自身の体験談を踏まえた新人育成の難しさや大切なことについて話され、その後、グループワークを行い、自己紹介から始まり、自施設での業務内容や課題等について、他施設の人と意見交換をしました。

### 閉会の挨拶

研究会事務局からの連絡事項に続き、南木由美副理事長から閉会の挨拶があり、三重県内における医師事務作業補助者の皆さんが益々活躍されるよう期待する

との激励をいただき、第1回の三重地方会を締めくくられました。

## 地方会を通して

今回の地方会は、三重県内では第1回目の開催ではありますが、未だ県支部が設立されていないために研究会本部主催として開催され、約80名が参加していただきました。実施にあたっては、本部はじめ隣県の愛知・岐阜支部の方々等に多大な御協力をいただきました。

内容的には、医師事務作業補助者として求められているスキルや業務内容、他施設での取組方や創意工夫について多くを知ることができ、今後の実務者のスキルアップに大いに役立つものであったと考えます。

今回の地方会を機に、今後も定期的に三重県内で地方会が開催され、県内全体のスキルアップに繋がるとともに、医師事務作業補助者さらには臨床支援士としての職種全体の発展に寄与できればと思います。

報告者：独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター 宮本 由季